

## 平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 上河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第2学年 国語 69人 社会 69人 数学 71人

理科 71人 英語 71人

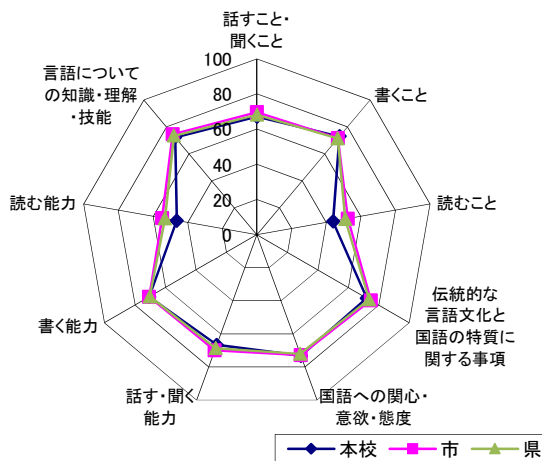
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立上河内中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	67.2	69.6	68.2
	書くこと	73.0	71.7	71.5
	読むこと	44.0	52.6	51.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.2	74.8	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度	73.2	72.8	72.1
	話す・聞く能力	66.7	69.9	68.7
	書く能力	70.8	70.7	70.3
	読む能力	46.3	54.7	53.1
	言語についての知識・理解・技能	72.3	74.5	73.5



## ★指導の工夫と改善

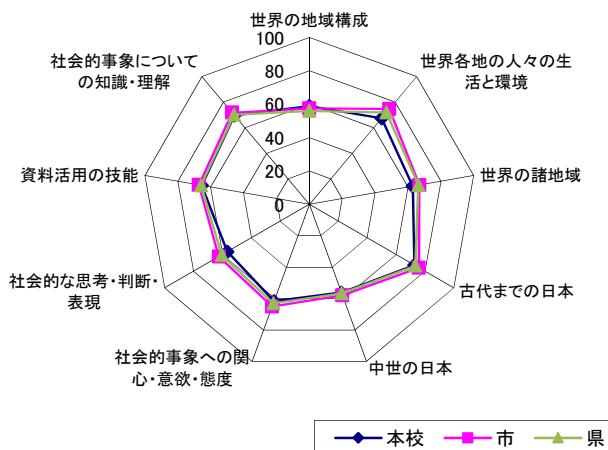
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○話の内容を正確に聞き取る設問では、県の平均を4.6ポイント上回った。</p> <p>●この領域全体の平均正答率は、県の平均より1ポイント、市の平均より2.4ポイント下回った。</p> <p>●司会者の工夫を聞き取る設問では、県の平均を5.2ポイント下回った。話し合いの際、司会者としてどうすべきか分からないということは、司会者としての経験が浅い生徒が多いことも考えられる。</p>	<p>・授業の中で、話し手の話に対して、集中して耳を傾ける活動を今後も多く取り入れていく。</p> <p>・話し合い活動は、多く取り入れているが、話の内容に関した質問をさせたり、司会者として円滑な話し合いを進める工夫をさせたりすることを重点的に取り入れていく必要がある。</p>
書くこと	<p>○この領域全体の平均正答率は、県の平均より1.5ポイント、市の平均より1.3ポイント上回った。</p> <p>○無回答率は2.9と県の平均より8.7ポイント下回り、普段から意識的に多く、書く活動を取り入れている成果と考えられる。</p> <p>●資料から読み取ったことを書く設問では、県の平均より7ポイント前後も下回り、資料を読み取ることが苦手な生徒が多いことが分かる。</p>	<p>・普段の活動から、「書くこと」への抵抗感は少ないと考えられる。引き続き、友達の文章を参考にさせたり、型を示したりして、自分の文章が更に良いものになるような意識をさせていく。</p> <p>・資料から読み取り、自分の考えを書かせるような活動を授業の中で積極的に取り入れていく。</p>
読むこと	<p>●この領域全体の平均正答率は、県の平均より7ポイント、市の平均より8.6ポイント大きく下回った。</p> <p>●文学作品の内容を読み取る設問では、特に登場人物の心情を読み取ることに於いて、市の平均を11.4ポイント下回った。登場人物の、揺れる微妙な気持ちを文脈から読み取れていない生徒が多いことが分かる。</p>	<p>・文学作品を扱った授業においては、情景描写や、ちょっとした言葉を手掛かりに、人物の心情を読み取っていく指導を、重点的に行う。</p> <p>・説明的文章を扱った授業においては、接続語やキーワードなどを手掛かりに構成を考えさせ、要点や要旨を捉えさせたりする学習を今後も継続していく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問では、県の平均より5.3ポイント上回った。古典を繰り返し音読する活動の結果であると考えられる。</p> <p>●この領域全体の平均正答率は、県の平均より1.5ポイント、市の平均より2.6ポイント下回った。</p> <p>●漢字を書く設問では、特定の漢字(拝む)が、県の平均より18.3ポイントも下回った。</p>	<p>・古典の学習に関しては、引き続き、音読を通し言葉のリズムや響きを味わせていく。また苦手意識が生じない手立てとして、古典の基礎知識を資料を用いて解説し、古典の世界がイメージしやすいようにさせていく。</p> <p>・漢字の読み書きは、今後も反復練習を行い更なる定着を図る。また、小学校の内容も復習させる。</p>

# 宇都宮市立上河内中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	58.9	57.6	56.0
	世界各地の人々の生活と環境	67.4	74.6	71.9
	世界の諸地域	62.9	67.0	66.3
	古代までの日本	72.6	75.7	73.3
	中世の日本	56.2	57.9	56.7
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	61.7	65.0	63.0
	社会的な思考・判断・表現	56.6	62.5	60.5
	資料活用・技能	65.5	67.2	65.9
	社会的事象についての知識・理解	69.7	71.8	70.1



## ★指導の工夫と改善

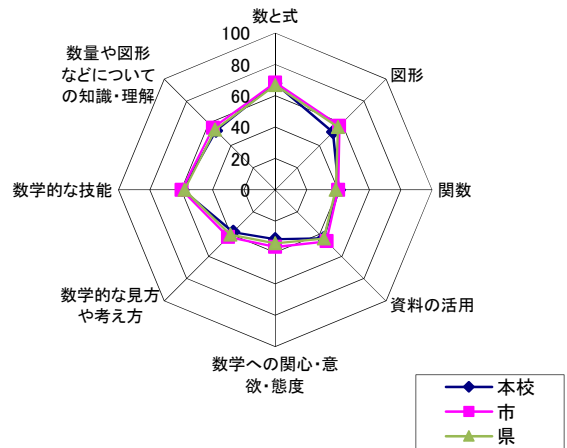
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の地域構成では、市平均を1.3ポイント、県平均を2.9ポイント上回っている。</li> <li>○緯度・経度の読み取りについてはほぼ県平均であり、緯度・経度が直角に交わる地図の特色については県平均を上回っている。</li> <li>●世界の地域区分については県平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業において地図帳を積極的に活用し、調べたところに印をつけるなど繰り返し学習することを継続していくことで、大陸名や地域名の理解が深められるよう指導していく。</li> </ul>
世界各地の人々の生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活の様子と自然環境を関連付ける設問は平均を上回っている。</li> <li>●世界各地の人々の生活と環境では、市平均を7.2ポイント、県平均を3.5ポイント下回っている。</li> <li>●雨温図をもとに気候帯を判断する設問では、平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や自然環境と気候帯を関連付けるために、分布の特徴や植生についてなど、資料から読み取る際の着眼点の指導を繰り返し行うとともに、雨温図の読み取りについてもそれぞれの気候帯と比較する機会を増やし、技能を高めたい。</li> </ul>
世界の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>○世界の様々な地域を調査する際の手順についての設問では平均を上回っている。</li> <li>●世界の諸地域では、市平均を4.1ポイント、県平均を3.4ポイント下回っている。</li> <li>●オーストラリアの様子についての設問について平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の諸地域については、オセアニア州だけでなく、それぞれの州の特色を整理することでさらに理解を深めていきたい。</li> <li>・オーストラリアは南半球に位置し、独特の文化をもっていること、日本との結びつきが強いことを、機会をとらえて復習させたい。</li> </ul>
古代までの日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聖徳太子の政治に関する設問は平均を上回っている。</li> <li>●古代までの日本では、市平均を3.1ポイント、県平均を0.7ポイント下回っている。</li> <li>●渡来人についての設問は平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の歴史で学習している人物についての理解はできていると考えられるので、時代や人物同士のつながりを意識させるようにしたい。</li> <li>・日本の文化が大陸との結びつきで成り立っていることを理解させたい。</li> </ul>
中世の日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中世日本の時代区分や中世の日本は武士の支配が広がっていったことについては県平均を上回っている。</li> <li>●中世の日本では、市平均を1.7ポイント、県平均を0.5ポイント下回っている。</li> <li>●中世日本の産業の様子や東アジアの国々との交流についての理解は県の平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中世の日本についての理解は、平均に近いものの時代の特色と内容をきちんと整理させることで理解を深めさせたい。</li> <li>・国内の動きや特色は理解できているが、産業面やアジアとの交流について等、多面的・多角的に時代をとらえることが不十分である。単元の総括の時間において、1時1時間の学習内容を結び付けながら多面的・多角的に時代を</li> </ul>

# 宇都宮市立上河内中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	67.9	68.4	66.8
	図形	52.1	57.8	56.5
	関数	40.5	40.1	38.5
	資料の活用	43.7	46.3	43.8
観点	数学への関心・意欲・態度	31.4	36.4	34.1
	数学的な見方や考え方	38.0	42.5	40.5
	数学的な技能	59.2	59.6	57.9
	数量や図形などについての知識・理解	53.4	56.0	54.3



## ★指導の工夫と改善

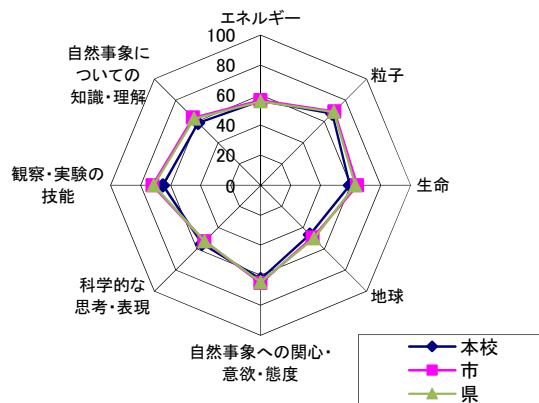
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○数と式の領域全体は県に比べて1.1ポイント高い結果となった。そのなかでも、県に比べて「移項をしない1次方程式」の問題は8ポイント、「1次方程式を解く」問題は、9.1ポイント上回っている。</p> <p>●県と比べて「絶対値について理解している」の問題は9ポイント、「数量の関係を等式に表す」の問題は13.1ポイント下回っている。</p>	<p>・絶対値についてももう一度授業の中で確認する時間を設けて、復習を行っていく。また、「数量の関係を等式に表す」については、連立方程式の単元で文章から立式する問題を何度も取り組ませることで、改善を図っていきたい。小テストを利用して、文字式の計算や連立方程式の解き方についても定着させるようにする。</p>
図形	<p>○「三角錐の投影図」の問題では、県平均よりも6.9ポイント上回っている。</p> <p>●図形の領域全体は県に比べて4.4ポイント低い結果となった。「柱体と錐体の体積の関係」の問題は県より14.5ポイント低く、「回転移動の回転の角の大きさ」の問題は8.1ポイント低くなった。</p>	<p>・円錐や角錐の体積や表面積の求め方について復習する時間を授業で設けて、確認させていく。また、角の大きさなどについては、平行と合同や三角形と四角形の単元において1年生の復習を加えながら指導をする。</p> <p>・上位層と下位層の差が大きいため、習熟度別学習を効果的に活用していく。</p>
関数	<p>○関数の領域は県に比べて2.0ポイント高く、市と比べても0.4ポイント高い。特に、「表から比例の式を求める」問題は県比べて正答率が11.2ポイントと高い。</p> <p>●「三角形の辺上を動く点を頂点とする三角形の面積の変化」の問題については10.3ポイント県に比べて低い。面積の変化を考えたり、与えられた式を数学的に考えるのが苦手なのが分かる。</p>	<p>・関数の基本である「表・式・グラフ」を関連させて考えられるように今後も継続して指導にあたっていく。特に、1次関数の単元では、1年生の比例や反比例の復習を加えながら、動点の問題ではそれぞれこの式の表す意味を説明させたりするなど、数学的に考える機会を増やしていく。</p> <p>・習熟度別学習を取り入れ、またグループ活動を通して、対話的に深い学びができるようにしていく。</p>
資料の活用	<p>○「階級の幅」についての問題では、県と比べて5.7ポイント高い。</p> <p>●資料の活用の領域では、県に比べてほぼ同じ結果だが0.1ポイント低い。また、「資料の全体の位置を判断するための根拠となる値について」の問題では、県と比べて12.4ポイント低い。</p>	<p>・確率の単元において、資料の活用における用語の復習を行う機会を設け、基礎基本の定着を図っていく。また、根拠となる値を求めたり、判断したりするなど、活用の観点の思考・判断となる部分の向上に努めていく。</p>

# 宇都宮市立上河内中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	56.3	56.6	55.8
	粒子	67.5	69.6	69.0
	生命	59.4	64.4	63.0
	地球	46.5	49.2	50.2
観点	自然事象への関心・意欲・態度	62.6	65.2	64.7
	科学的な思考・表現	55.3	52.8	52.8
	観察・実験の技能	65.1	72.0	71.2
	自然事象についての知識・理解	58.8	63.7	62.7



## ★指導の工夫と改善

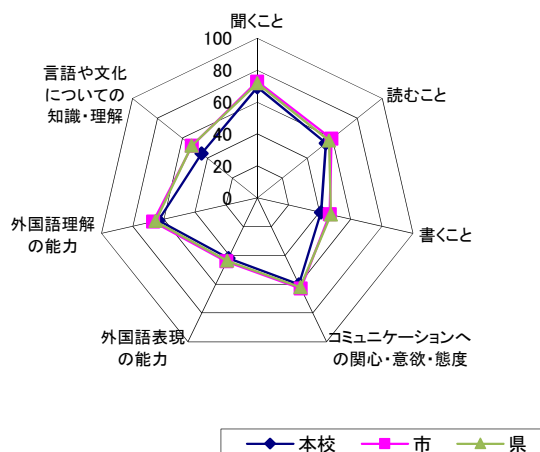
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○平均正答率は、県平均を0.5ポイント上回っており、市平均とほぼ同じである。</p> <p>○スクリーンにうつる実像を考える問題では県の平均を8.6ポイント上回っている。力を表す矢印を答える問題では県の平均を8.1ポイント上回った。</p> <p>●面積と圧力の関係の問題では県平均を9.2ポイント下回った。</p>	<p>・凸レンズを通る光の道すじや、力の矢印の作図は今後も力を入れていく。計算の方法や結果だけでなく、圧力の計算の要素である「力」「面積」「圧力」の関係を、身近な現象と関連付けて丁寧に指導していく。</p>
粒子	<p>○砂糖とかたくり粉を区別する方法を記述する問題では県の平均を15ポイント上回っている。また、状態変化の粒子モデルを考える問題は県の平均を10.1ポイント上回っている。</p> <p>●平均正答率は、県平均を1.5ポイント、市平均を2.1ポイントの平均を下回っている。</p> <p>●質量パーセント濃度や密度に関する問題では、県の平均をともに10ポイント以上下回っている。</p>	<p>・基本的な計算問題を繰り返し行う。また、生徒が主体的に考えることによって、公式を導き出すことができるような手立てを行っていく。記述の練習や実験の考察などは、このまま丁寧な指導を継続していく。</p>
生命	<p>○イチゴの葉や果実の絵を見て分類する問題では県の平均を5.5ポイント上回った。</p> <p>●平均正答率は、県平均を3.6ポイント、市平均を5ポイント下回っている。</p> <p>●ルーペの使い方の問題では県の平均を13.8ポイント下回っている。</p>	<p>・基礎基本の知識を定着させるために、前時の復習や単元の復習を多く取り入れる。また、入学してすぐに多くの実験器具を扱うことになるので、丁寧に説明し安全かつ確実な使用方法を身に付けさせていく。</p>
地球	<p>○図を見て断層を判断する問題では、県の平均を7.6ポイント上回った。</p> <p>●平均正答率は、県平均を3.7ポイント、市平均を2.7ポイントの平均を下回っている。</p> <p>●堆積物から火山の噴火を推測する問題では県の平均を16.9ポイント下回った。</p>	<p>・火山の噴火や断層のようすの学習では、モデルや映像を用いた指導を継続していく。地層や堆積物を観察することによって、当時の環境や時代を考えさせる機会を多く与える。</p>

# 宇都宮市立上河内中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	69.4	72.8	71.8
	読むこと	55.0	59.4	57.5
	書くこと	41.0	46.6	47.3
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	60.2	63.0	62.2
	外国語表現の能力	41.8	44.2	43.6
	外国語理解の能力	63.5	66.8	65.4
	言語や文化についての知識・理解	44.6	52.3	52.5



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○平均正答率は市の平均を3.4ポイント下回ったが、前年度より1.1ポイント差を縮めた。</p> <p>○絵に合う英文を聞き取る問題は、1つの情報を聞き取るものについては90ポイントを上回った。また、スピーチを聞いてそのテーマを選ぶ問題では、市の平均正答率を2.7ポイント上回った。</p> <p>●チャイムの部分に入る表現を選ぶ問題の1問目が、市の平均より16.1ポイント低かった。初めての問題形式に戸惑ったと考えられる</p>	<p>・様々な問題形式に慣れるよう、色々なタイプのリスニングテストを取り入れる。</p> <p>・教科書の内容理解の際、毎回教科書を閉じての聞き取りを行い、5w1hに注意して聞き取る練習を行う。</p> <p>・リスニングを行う際、常にメモを取りながら聞くことができるよう、継続的に指導する。</p>
読むこと	<p>○対話の流れと資料の情報・条件をもとに、適切なものを選ぶ問題では、県、市の平均を若干上回った。</p> <p>●正答率は市の平均と比べ、4.4ポイント低い。特に、単語そのものを書く問題が、全て、市の平均より10ポイント以上下回っており、単語の定着がなされていないことが露呈している。</p>	<p>・まずは、単語の定着が最重要課題である。1年時から、毎週末単語練習の宿題を出しており、今年度は週明けにテストも行っている。家庭学習での単語習得について、さらに根気強く指導していく。</p> <p>・文章の読み取りについては、県・市の平均と比べて、それほど大きく下回ってはいない。教科書の内容理解を毎回丁寧に行っている成果であると思われる。今後は文法事項の復習を取り入れながら、丁寧な読み取り指導を継続していく。</p>
書くこと	<p>○3文以上の英作文を書く問題において、自分がよく行く場所やその具体的な理由を書く点で、市の平均を6.7ポイント上回っており、テーマに沿って3文以上で書くという点でも、3.6ポイント上回った。</p> <p>●正答率は市の平均より-5.6ポイントと一番低かった。中でも、疑問詞what+名詞の疑問文の作り方を間違えている割合が非常に多い。また、対話の流れに沿った英文を書く(疑問詞でたずねられたことに対する応答)問題の正答率も、市の平均より5.5ポイント低かった。</p>	<p>・日頃から、英作文やスピーチの指導に力を入れ、生徒たちも楽しんで、前向きに取り組んできた成果が出ている。今後も継続し、定期テストにも今まで同様、3~5文程度の英作文を必ず取り入れていく。</p> <p>・語順や時制に関するルールなど、きちんと覚えきれていない部分が多々あるので、ワークを文法説明時に1回、テスト前にもう一度取り組むことで、定着を目指す。</p>

## 宇都宮市立上河内中学校 第2学年 生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習についての質問では、「自分で計画を立てて学習している」の肯定的回答が76.1ポイントで、市の平均を7.4ポイント上回っており、「授業の復習をしている」の肯定的回答は81.6ポイントで、市の平均を6.7ポイント上回っている。「テストで間違えた問題を勉強している」に対する肯定的回答も同じく81.6ポイントで、市の平均を同程度上回っている。

●これに対し、「学校の授業の予習をしている」に対しては、「どちらかといえばいいえ」の割合が一番多く、肯定的回答は市の平均より3.9ポイント低い。このことから、生徒たちは復習に重点をおいて、家庭学習に取り組んでいることが分かる。

○平日の学習時間に対する質問では、「1時間以上2時間より少ない」と答えた生徒が一番多く、市・県の平均を約4ポイント上回っている。また、「全くしない」の回答は0であった。

●一方で、3時間以上勉強している生徒の割合は、2.8ポイントで、市・県の平均より約3.5ポイント低い。休日の学習時間においても、同様の結果が見られる。今後は進路決定に向け、少しずつ学習時間を増やしていくと、学力向上につながると考えられる。

○学ぶ意欲に関する7問に対する肯定的割合は、いずれも市・県の平均程度か、平均を上回っている。このことから、本校生徒は好奇心が旺盛で、学習に対して前向きに取り組んでいると言える。

●一方、宿題に関する質問では、宿題の量に関しては、「ちょうどいい」に肯定的回答が97.2ポイントと高く、市・県の平均を上回っているのだが、「やりたくなる内容か」の問いへの肯定的割合は、33.8ポイントと、市・県の平均を10ポイント以上下回っている。このことから、本校生徒はワークや暗記作業など、覚えるのに時間がかかる、あるいは根気のいる作業が苦手であると思われる。

○学校での様子に関する質問では、「学級活動の時間に、友達同士で話し合っってクラスの決まり事などを決めていると思う」の肯定的回答が、90.1ポイントと高く、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできている」の肯定的回答も88.7ポイントと高い。その他の質問に対する回答からも、生徒たちはお互いを尊重しながら、楽しく学校生活を送っていると考えられる。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の質問に対する肯定的割合が、70.4ポイントで、県の割合より1.4、市の割合より4ポイント低い。分からない時には休み時間や、授業後など、どんどん質問するよう声かけをすることで改善すると思われる。

●家での生活・家族のことに関する質問では、「毎日、朝食を食べている」の肯定的割合は、市・県の平均より5ポイント以上低い。「早寝・早起きを心がけている」の肯定的回答も67.7ポイントで、市の平均より4.3ポイント低い。また、「家での決まりを守っている」の肯定的割合は、83.1ポイントで県の平均を約5ポイント下回った。「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」に対する肯定的割合は70.4ポイントで、市の平均を8ポイント下回っている。

○「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」の肯定的割合は、80.8ポイントで、県の平均を9.5ポイント上回った。

## 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・表現力を高め、自分の考えを伝え、学び合うことのできる生徒を育成する。	話し合い活動やグループ活動、発表の機会を意識的に授業中の必要な場面に促して取り入れる。	「自分の考えや発表する機会が与えられている」と回答した生徒は91.5ポイントだったが、「クラスは発言しやすい雰囲気である」と回答した生徒が84.5ポイントとなり、昨年と比べて逆転してしまっている。教師側で授業中に話しあう場を積極的に設けるようになった一方、発言する雰囲気作りにも再度気を配っていく必要がある。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
目標を掲げ、向上心をもって努力する生徒が少ない。	昨年に引き続き、基礎的・基本的内容の定着を図ることで、自信をもたせ、意欲を高めさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来への目標を立てたり、将来の夢を考えるなど、学級活動やキャリア教育と絡めながら、学習への意欲につなげることで、家庭学習の習慣化および質の向上を図らせる。</li> <li>・達成目標を小さく設定し、確実に達成できるようにする。</li> <li>・基礎・基本の定着のために、ドリル学習を根気強く行う。</li> <li>・保護者会や各種たより等を通して、保護者への啓発活動を行う。</li> </ul>